

e ラーニングを活用したがん看護実践能力向上のための教材設計 —臨床応用を目的とした事例演習中心の独習型教材—

Design of learning materials for practice nurses in cancer nursing using e-learning —Self-learning using case practice for clinical application—

菊内由貴^{*1*2}, 中野裕司^{*2}, 鈴木克明^{*2}, 平岡齊士^{*2}
Yuki KIKUUCHI^{*1*2}, Hiroshi NAKANO^{*1}, Katsuaki SUZUKI^{*1}, Naoshi HIRAOKA^{*1}

^{*1} 独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター
^{*1} NHO Shikoku Cancer Center

^{*2} 熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻
^{*2} Graduate School of Instructional Systems Kumamoto University

Email: universe16president@gmail.com

あらまし：平成 18 年のがん対策基本法施行に伴い、がん看護の質向上を目指して行われている「がん看護実践に強い看護師育成研修（厚生労働省）」は、研修期間がおおよそ 40 日間程度と長期間であるため研修受講者および研修運営者ともに臨床現場からの人材喪失という負担が大きく、全国的に継続困難な状況に陥っている。本稿では、がん看護の質向上を目指して行われている現状の研修について、インストラクショナルデザイン（ID、教育設計）の観点から課題を明確化し、教材の再設計を行った。本教材は、学習課題の特性を踏まえて、e ラーニングを活用しながら独習と対面学習とをブレンドし、臨床現場での事例に基づいて設計されていることにより、現場の臨床応用能力を向上させるとともに、長期間の研修拘束による人材喪失を防ぐことに貢献するものである。

キーワード：がん看護、臨床実践家教育、インストラクショナルデザイン、e ラーニング

1. はじめに

平成 18 年のがん対策基本法施行に伴い、がん医療の質向上および均てん化のための医療従事者育成の必要性が示され、看護領域では「がん看護実践に強い看護師育成研修（厚生労働省）」が全国で取組まれた¹。しかし研修が 40 日間と長期にわたるため、研修生側、研修運営側ともに、臨床現場からの人材喪失という負担が大きく、継続困難な状況に陥っている。本稿では、インストラクショナルデザイン（以下 ID とする）の観点から従来版のがん看護実践に強い看護師育成研修の課題を明確化し、e ラーニングを活用し独習と対面学習をブレンドしたがん看護実践における臨床応用を目的とした教材を提案する。

2. 従来版研修の全体像

本研究では、この従来版研修を参考にしながら、ID の視点から効果・効率的ながん看護研修を再設計する。従来版研修のモデルである日本がん看護学会の研修案²を以下に示す。

2.1 研修目的

がん看護に従事する看護師を対象に、実務研修を実施し、約 40 日間の研修をとおして、がん看護実践の核となる臨床実践能力の向上を図る。

2.2 研修目標

①がん治療に伴う主な副作用、合併症に対する適切

な看護援助ができる

②がん告知や治療経過で体験する患者・家族の危機状態に応じた精神的支援ができる

③がんの進行に伴う苦痛に対する適切なアセスメントと症状コントロールが実施できる

④がんとの共生を支えるためのがん患者教育が実施できる

⑤がん患者及び家族が円滑に療養の場を移行するための、情報提供や相談、連携や協働ができる

⑥がん患者及び家族に関わる倫理的ジレンマへの対処ができる

2.3 研修項目

研修項目は、『講義・演習』『見学実習』『病棟実習』で構成され、修了 2 か月後にフォローアップ研修が設置されている。

2.4 研修評価

26 項目の研修下位目標を研修前、中間、研修後の 3 地点に 7 段階（1 できない～7 よくできる）の自己評価を行う。提出レポートの採点は無い。

3. ID に基づく課題の明確化と改訂版の設計

3.1 課題の明確化

ID の 5 つの視点から従来版研修の課題を明確化するために、鈴木の『教育・研修の ID チェックリスト（以下、「チェックリスト」とする）』を使用した³。

は、従来版研修では出口・入口・構造・方略・環境の5つの視点すべてにおける課題が明確になった。この結果は、第40回教育システム情報学会で報告した⁴。

3.2 課題に基づく改訂ポイント

課題に基づく再設計のポイントは、7点である。

- ①独学を支援するしくみの導入
- ②学習者自身が学習を計画・管理できるしくみの導入
- ③知識習得→事例演習→臨床応用の3ステップの導入
- ④学習者の知識・経験の差の是正のための事前学習の導入
- ⑤学習者同士の相互作用を促進させるしくみの導入
- ⑥学習目標の細分化と科目対応の明確化
- ⑦目標達成を確認する合格基準の導入

4. 改訂版教材の設計

4.1 eラーニングの活用

明確化された課題に基づき、eラーニングを活用した改訂版教材を設計した。改訂版では、学習管理システム(LMS)としてWeb上で提供されているMoodle Cloud サービスを利用し、従来版の一部についてコンテンツの設置を行った。

【教材サイト】

<https://specialreserch.moodlecloud.com/login/index.php>

ID : user PW : user

4.2 従来版と改訂版の対比

改善ポイントを踏まえた従来版と改訂版の対比を表1に示す。

表1 改善ポイントを踏まえた従来版と改訂版の対比

項目	従来版	改訂版
研修形式	・40日間の対面研修	・オンラインによる独習
学習目標	・6目的、26の目標	・172の評価可能なレベルの目標 ・言語情報、知的技能別に設定
目標と科目の整合	・明示無し	・学習目標に基づいた科目設定
目標到達基準	・所定の出席日数 ・記録物を提出	・学習目標毎のテストの合格 ・レポート採点基準の合格
学習者の経験の差を埋める工夫	・設定なし	・事例演習前のテスト合格
学習者が学習内容を選択の可否	・設定なし	・6学習テーマから選択可能
研修参加への自主性/自律性の程度	・参加すれば修了可能	・自分で学習課題の取組が必要
目標達成に向けた段階学習	・設定なし	・学習目標細分化によるスモールステップ ・知識習得→事例演習→臨床応用の3ステップで学習可能
学習者同士の相互作用効果	・自然発生に依存	・学習者相互コメントを設置
教師の必要性	・40日間全日程に必要	・臨床応用のみ評価に必要。 ・その他はメンタナンスのみ必要
教師による格差	・講義内容や実習指導が教師に依存	・学習内容や方法が設計

5. エキスパートレビューによる改善

5.1 エキスパートレビュー

改訂版教材の妥当性を確認するために、IDの専門家3名、がん看護の専門家3名、上長1名の計7名によるエキスパートレビューを実施した。

5.2 エキスパートレビュー結果に基づく改善

レビュー結果に基づく改訂版 Ver.2 の主な改善点を表2に示す。

表2 エキスパートレビュー結果に基づく主な改善点

項目	改訂版 Ver.1	レビュー結果	改訂版 Ver.2
対面研修	・無	・学習意欲維持に有用 ・対面参加が困難な場合の対応	・適宜設置 ・選択可能箇所の設置
ステップ順序	・知識→事例→応用	・学習不足の確認をしながらステップ活用	・どのステップからでも受講可能
moodle 操作説明	・オンラインのみ	・eラーニング不得手者の脱落防止の工夫	・対面オリエンテーション科目の設置 ・対面/オンラインの選択可能
教師	・原則不要 ・最終評価のみ要	・臨床指導者不在の不安	・事例演習での合格基準強化

6. まとめ

IDの観点から、従来版のがん看護研修の課題を明確化し、eラーニングを活用した教材の再設計を行った。改訂版教材では、知識習得→事例演習→臨床応用の3ステップで構成され、eラーニングを活用した独習型教材として設計された。さらに、エキスパートレビュー結果に基づきeラーニング教材やディスカッション部分に対する不安等に対応できるよう、選択式の対面学習をブレンドできるよう改善を加え、学習者の環境やニーズ等、個別性に対応する設計へと改善された。がん看護実践能力の向上におけるeラーニング教材の活用は、長期間の対面研修で生じる臨床現場からの人材喪失による看護の質低下を防ぐことができる。また、LMSのテスト機能により、既知の学習内容を省き、学習者にとって本当に必要な学習課題の厳選が可能である。さらに、臨床応用において適宜教師のコーチングを利用しながら臨床実践に取り組めることにより、OJTを通じた実践現場の質向上に貢献できる。

以上より、臨床実践家に対するeラーニングを活用した教材の活用は、異なる知識や経験を有するがん看護教育において、学習者個々の学習ニーズに応じた学習時間および学習内容の厳選ができることによって、学習の効果・効率に貢献することができる。

参考文献

- ¹ がん医療水準均てん化の推進に向けた看護職員資質向上対策事業 参考資料 (accessed May.1.2016)
[http://www.wam.go.jp/wamappl/bb11gs20.nsf/0/83024fb6dabd9f9d49257845001e0e93/\\$FILE/20110225_3sankoushiryou1.pdf](http://www.wam.go.jp/wamappl/bb11gs20.nsf/0/83024fb6dabd9f9d49257845001e0e93/$FILE/20110225_3sankoushiryou1.pdf)
- ² 一般社団法人日本がん看護学会 HP, がん看護実践に強い看護師育成プログラム, (accessed May.1.2016)
<http://jsen.or.jp/program/index.html>
- ³ 鈴木克明(2008)「インストラクショナルデザインの基礎とは何か:科学的な教え方へのお誘い」『消防研修』(特集:教育・研修技法)第84号(2008年9月)52-68